

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス てとと		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 31日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 37名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 31日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動とタブレット学習支援など支援の目的を明確に提示し支援を行うことが出来ている。	低学年向けと高学年向けのタブレット学習を導入している。活動での支援とタブレット学習支援・季節ごとのイベントの開催など季節も感じながら過ごせるような支援を行うことができています。	全体に今後どのようなイベントがあるのか早めに周知するよう保護者との共有ソフトやSNSで保護者や共有をしていきたい。
2	各資格者の専門的な支援がおこなえるよう、毎週の活動計画を検討会を職員で行うことが出来ている。	各専門職がどのようなアプローチを実施できるのか職員会議で案を提案して翌月の活動を決めている。	全職員がどのような目的があるのかしっかり把握し支援を行えるよう情報出来るツールを使い共有を実施していく。
3	児童管理や請求業務、勤怠管理等、すべてパソコン・タブレットで行っており標準化されている。当然、連絡帳なども独自のシステムで保護者へオンラインで提供している。連絡帳で細かい部分も報告が出来ている。	連絡確認のサイン等もオンライン化されている。活動記録などもタイムラグ無く保護者が確認することができる。	保護者へも概ね好評であり、手持ちのスマートフォンなどで気軽に連絡もできる。LINE等のフリーソフト等を使用せず、セキュリティにも気を遣っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との直接的な関りが少ない。	ICTの導入を実施。連絡ツールのソフトで電子サインをもらっているため事業所で保護者とお話する機会が少ない。	定期的に保護者会や講演会など開いて関わる時間を設ける。
2	中学生の進路や社会生活における課題、経験のための活動や支援が不十分だと考えています。	進路や就労に向けて具体的な課題や必要な経験についての知識や情報が事業所として不足していると感じています。	事業所のできるライフスキルトレーニングの充実を図っていただけるよう情報収集や研修を行っています。
3	他のデイサービス、地域の児童との交流機会を設けていくことが今後の課題です。 ・地域の方々との交流（高齢者など）	地域の交流はできていますが継続した交流方法の検討が必要と考えています。	他の福祉施設等との連携や情報共有ができる場に赴くことで、交流機会を作っていければと考えています。